

MIZUHO

瀬木学園だより

学校法人瀬木学園

愛知みずほ大学・大学院

愛知みずほ短期大学

愛知みずほ大学瑞穂高等学校



Vol.27

「発健(見)MIZUHO」(大学)	1・2・3
「新生 MIZUHO」(高校)	4
「新生MIZUHO」(大学・短大)	4
「足跡 MIZUHO」(学園)	4
「INFO MIZUHO」(大学・短大・高校)	5
「きらり☆MIZUHO」(高校)	5
「瑞想録」	5



新年度の冒頭は、新しい時代の幕開けをめぐり、国内が活気に満ちました。本学園も例外ではなく、新しい時代に向かう活気に溢れたスタートを切りました。

考えようによつては、毎日、夜が明けることも新しいスタート。日常生活の中には常に「幕開け」は用意されています。目に触れる当たり前の風景に節目を感じ、その瞬間、瞬間を大切にしていけたら、いつも活気ある一日が迎えられるのかもしれません。本学園の活気ある風景をお届けしますので、お楽しみください。



調査中の川瀬基弘准教授(左)と横井敦史さん(「発健(見)MIZUHO」)
撮影地:鳳来寺山



今回の「発健(見)」では、愛知みずほ大学の師弟コンビの「大発見」をお伝えします。師弟コンビは人間科学部の川瀬基弘准教授と心理・カウンセリングコース2年生の横井敦史さんです。二人は守山区の滝ノ水池で行った2月20日の調査で名古屋市では20年以上、死殻でさえ見つからなかった貴重な貝、「イシガイ」を発見しました。イシガイは、5年ごとに作成される冊子、「レッドデータブックなごや2015」において絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来に野生での絶滅危険性が極めて高いもの)に指定され、2020年版での「絶滅」入りが検討されていました。お二人にインタビューした内容の一部をご紹介します。

※インタビュー実施日 川瀬准教授:2019年4月15日 横井さん:同年4月23日

川瀬准教授へのインタビュー



川瀬准教授

M 生きているイシガイを発見されたということですが、ここ数十年は死んだイシガイですら見つかっていなかったそうですね。

名古屋市内では、死んだイシガイが見つかったのはもう20年～30年ほど前です。戦後の高度経済成長期に一気に環境が変わり、農薬も使われるようになり、その頃に急激にいなくなってしまったものと思われます。また、近年外来種が入ってきたことにより、外来種に食べられてしまったこともあります。

M 発見された時は「やった！」という感じでしたか。

声が上がりましたね(笑)。この時は3つ発見することができましたが、もっとたくさんいるはずなので、これからも調査は続けます。

M もともと滝ノ水池にイシガイがいると分かっていて調査に行かれたのですか。

この池に関しては、ほぼいるという証拠が出たのです。昨年、死んだ貝の殻を見つけた方がいらっしゃるという情報を今年になつて聞いたのです。ちょうど調査に向かう1週間前だったので、「これはいるぞ!」と。最初は「ジョレン」という道具を使用して採集を試みたのですが1個も取れず、諦めかけた時に、特注品として作った「手投げドレッジ」を使ってみたところ、イシガイが発見できたのです。手投げドレッジが無ければ取れていなかつたです。

M イシガイが見つかったことで、池自体を保護する動きなどは出てくるのでしょうか。

それを期待して新聞に載せても
らったということもあります。ただ逆効
果もあり、広く知れ渡ることでマニア
やコレクターが採りに来てしまい、地域
絶滅してしまう可能性があるのです。
なので、公表することを迷ったのでは
が、この貝の場合はウェダースーツ(胴
長靴:胸元まで及ぶゴム製防水ブーツ)
を着て入り、特殊な道具を使うことで
しか採れないでの、絶滅する可能性は
低いと思い、公表しました。

M 瑞穂高校出身でみずほ大学学生の横井さんが第一発見者ということですが、彼はもともと興味があったのでしょうか。

もともと魚が好きだったそうです。私が担当している「生物と環境」という授業を彼が履修していたのですが、授業後に時々質問に来てくれるので話をしていた中で、生物が相当好きなんだということがわかりました。

M 先生から横井さんに、一緒に調査に行かないかと声を掛けたのですか。

そうですね。昨年、「卒論生」と共に、フィールドワークとして佐久島や三河湾や岐阜県などにはほぼ毎週欠かさず行っていたのです。それに彼を誘いました。彼は別の授業などが無い限り参加してくれました。今年度は、私が水曜日にしか時間が取れなくなってしまったので、もし時間割などを調整できるのなら付いてきても良いよと言ったら、先週、早速、博物館に同行してくれました。今週は化石を取りに行きますし、夏休みなども合わせれば50回以上参加してくれるかもしれません。行くだけではなく論文を書きたい正在ってるので、論文の書き方も教えてあげたいですね。また、今年の3月に名古屋市民向けの講座がありました。そこに私は行けなかったのですが、彼になら任せられると思い、私の代わりに名古屋市民の前で講演をしてもらいました。割と評判も良く、年齢が高めの方ば



桑井 月刊
た『幻の貝』。発見した愛知みずほ大(瑞穂区)の川瀬基弘准教授(44)=軟体動物学=は「手付かずの素晴らしい自然環境が残っているおかげ」と喜んでいる。(水越直哉)
見「自然環境のおかげ」

かられていた
味と尾張旭市
で発見され
つかなかつ
見「自然環境のおかげ」

川瀬さんは「二〇一二年
から、名古屋市発行の『な
ごやレッドデータブック』
で記録している。
元々、市内にもいたが、
大きさは約六ミリ。全国にい
るが、河川改修や水質悪化
で数は減っている。
『死んでしまわないだろう』
とされる殻を小幡緑地公園
の池で見つけたのが最後の
記録という。

守山区
IC
尾張旭市
名鉄道
線
た滝の水池



見つかった滝の水池=守山区下志段味で

発見に関する新聞記事(中日新聞)

かりの中に若い人が1人混じっていたので、新鮮でいいねとみんなが言っていました。

M 先生のように発掘や研究をしていきたいと思っている学生や子どもたちにアドバイスをお願いします。

「好きであり続けること」ですね。化石は小学校の教科書にも出てくるので、興味を持つ子はいますが、年齢を重ねるとその興味が別の分野に移ってしまうことが多いと思います。たまたま自分は飽きずにいられたことが今に繋がっています。なので、飽きないで続けてくださいと伝えたいです。

幻の貝「名古屋にもいた

イシガイ



滝の水池で見つかったイシガイ。DNA分析するため軟体部は取り出してある=川瀬さん提供

「可能性がありそうな池や用水路を百力所以上、片端から調べたけど見つからなかった。周囲からは、絶滅してると言われ続けた。水深一㍍付近の砂や小石の中から生きた個体三個が見つかると、冬の池の中で大きな歓声を上げて喜んだ。どうしてイシガイは、滝の水池で生きていたのか。川瀬さんによると、この池の護岸はコンクリートで固められており、周囲の雑木林もほぼ手付かず。池に生活排水は流れ込んでいて、外来種の侵入も少なくなる。」

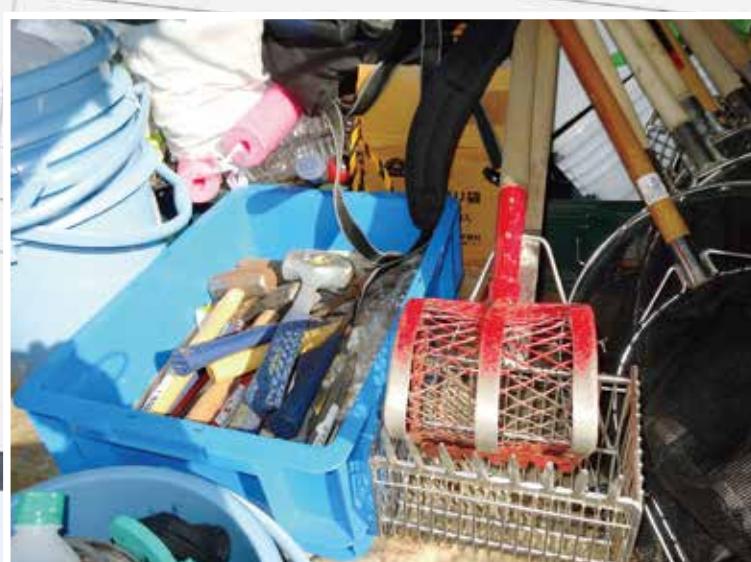
川瀬さんは「自然環境を維持した希少なため池。これが生き残ったままでは、いつまでも周辺の環境が、いつまでも保全されることを期待したい」と話している。



発見に使用した「手投げドレッジ」



川瀬准教授の自家用車のトランクには
採集に使用する道具が満載
(中央右の赤色の道具が「ジョレン」)



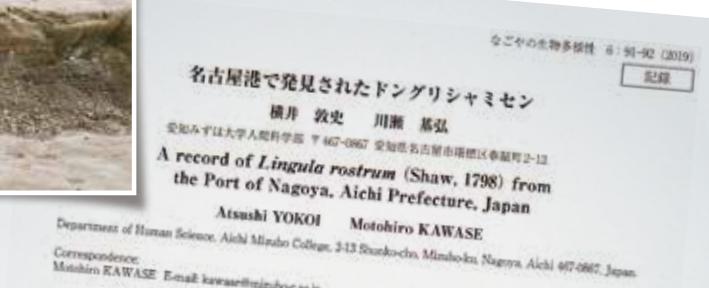
横井さんへのインタビュー



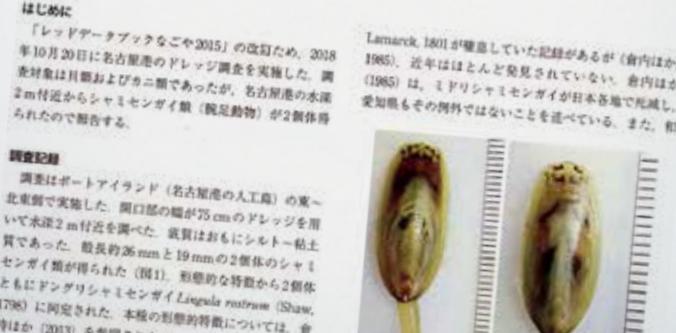
釣り道具を披露する横井さん



調査の様子



はじめ
『レッドデータブックなごや2015』の改訂ため、2018年10月20日に名古屋港のドレッジ調査を実施した。調査対象は貝類およびカニ類であったが、名古屋港の水深2m付近からシャミセンガイ類(腕足動物)が2個体得られたので報告する。



M イシガイを発見した時はどのような気持ちでしたか。

本当に嬉しかったです。胸の辺りまで水に浸かった状態で、手投げドレッジを30投近くも投げ、やっと見つけることができたのですから。

M 川瀬先生から魚類に興味を持っていると聞きましたが、魚のどのようなところが好きなのですか。

陸地に無い生態があるところですね。例えば人間は肺呼吸ですが、魚になるとエラ呼吸になるところなど、構造的に面白いです。あとは海水魚と淡水魚の違いがあるのも興味深いです。

M いつ頃から魚に興味を持ったのですか。

記憶に無いくらい昔からです。親から聞かされた話なのですが、生まれて初めて外出した場所が水族館だったらしいです。その後、図鑑などを読み漁るようになり、(幼稚園の)年中くらいから釣りを始めました。

M 川瀬先生との出会いについてどう思われていますか。

本当に感謝の気持ちしかないです。大学に入った時点では、もうやりたいこと(魚類などの生物に関する研究)ができないと諦めて趣味として続けていたくらいただったので。川瀬先生のことは自分が高校生だった時、みずほ大学の教員紹介を見て知りました。その紹介文に、干潟に関することが書かれていて、ぜひお会いしたいと思っていました。そこで大学1年の前期に川瀬先生の生物の授業を取り、色々お話しさせていただくようになりました。その後、1年次の夏休みから調査に同行させていただいている。

M 「レッドデータブック」の報告会で発表されたそうですね。

そうですね。川瀬先生の代わりに、10分程度ですが貝類に関する発表を行いました。イシガイやシャミセンガイ、マツカサガイという貝など、絶滅したもの、しそうなものについての発表をしました。

M 研究成果を名古屋市の研究誌で発表されましたか、論文にご自身の名前が載って、どう思われましたか。

嬉しかったですし、指導していただいた川瀬先生には本当に感謝しています。

M 将来のビジョンはありますか。

狭き門ですが、研究者になりたいと思っています。



新しい時代の幕開けに際して 小川八郎校長就任(高等学校)

今年度、愛知みずほ大学瑞穂高等学校第10代校長に就任した小川八郎校長のコメントをご紹介します。



本年度より、愛知みずほ大学瑞穂高等学校の校長を拝命いたしました。今年、創立80年を迎える、歴史と伝統を誇る本学園の発展に尽くして参りたいと思います。また、高等学校に在籍している生徒一人ひとりが、その素晴らしい素質を開花させられるように、全教職員と力を合わせて、よりよい教育を探求していきたいと思っています。

グローバル化と情報通信技術の進展により社会は大きく変化していますので、生徒のみなさんは、将来を見据えて主体的に学ぶ姿勢を身に着けていかなければなりません。もちろん、私たち教職員も学ぶ姿勢を持ち続け、生徒のみなさんと一緒にになって、学びの質が向上していくように努めたいと思います。令和の新しい時代を担うみなさんが、本学園で大いに学び、様々な出会いや経験を通して視野を広げ、将来、社会に貢献していくことを楽しみにしています。

大学・短大1号館別館竣工

大学・短大校舎1号館に別館が誕生しました。学生数増加に伴う教育環境の充実を目的に誕生した別館には6つの講義室とトレーニングルームがあります。別館は1号館に隣接し、学生の移動にも便利です。より便利で快適になった環境での充実した学びを期待します。



足跡
MIZUHO

80年間の貴重な資料を展示
瀬木学園ギャラリー

今年度4月に、大学・短大1号館5階フロアに学園の歴史を紹介するコーナー「瀬木学園ギャラリー」が設置されました。学園創立当時の貴重な資料も展示されていますので、学園創立後80年に及ぶ「足跡」を辿りに、ぜひお立ち寄りください。



Newspaper



INFO MIZUHO

新時代に671名を迎えて 新年度スタート

本年度、学園は671名※の新入生を迎え、健やかな活気に満ちた中、新年度をスタートさせました。
※大学154名 大学院11名 短大133名 高校373名

写真は入学式の様子



きらり☆ MIZUHO

全国大会の結果(高等学校)

ジュニアオリンピックカップで優勝

水泳部

第41回全国JOCジュニアオリンピックカップ(3/27~3/30 東京辰巳国際水泳場)で、内藤大翔くん(1年 名古屋市立左京山中学出身)が100Mバタフライで優勝しました。また、戸田菜月さん(1年 東浦町立西部中学出身)が50M自由形で第3位に、倉知玲央奈さん(1年 豊田市立保見中学出身)が100Mバタフライで第4位に入賞しました。



内藤大翔くん



戸田菜月さん



倉知玲央奈さん

全国高等学校選抜卓球大会出場

第46回全国高等学校選抜卓球大会(3/25~3/28 北九州市立総合体育館)に卓球部が出場し、1年生だけの戦力にもかかわらず予選リーグを突破しました(惜しくも決勝トーナメントは1回戦敗退)。

卓球部

出場メンバー

岡屋敷海里さん——(新宮市立城南中学出身)
中田絵梨奈さん——(名古屋市立一色中学出身)
軒 佳鈴さん——(桑名市立陽和中学出身)
森 愛美さん——(稻沢市立治郎丸中学出身)

※学年は当時



瑞想録

今回の「発健(見)」の話題は、インタビューで知り得た情報だけで1冊の本が上梓できるほど中身の濃いものでした。実は、そのような話題は珍しくなく、編集に際し、毎回、多くの部分を割愛せざるをえません。忍びない思いもありますが、ただ、それは学園に関する話題が豊富だということを物語っているのですから「冥利に尽きる」とも言えます。

転寝